

2022.11.13

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 40 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

<11~12 月の日程>

11/20 (日)、11/27 (日)

※11 月の雨天予備日 12/11 (日)

12/18 (日) ※12 月の雨天予備日 12/25 (日)

いずれも 10:00~ 大門観察台集合 11:30 終了予定

※雨天の場合は小雨でも中止、予備日に繰り下げ

★ニリンソウを守る会は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

枯れ葉舞う ニリンソウ自生地 草刈り作業 順調に進行中

大門ニリンソウ自生地の秋の手入れ作業は 11/13 で 3 回目を迎えました。前日までの好天がこの日は崩れる予想でしたが、幸いにも午前中はちょうど良いお天気で、気持ちよく作業ができました。

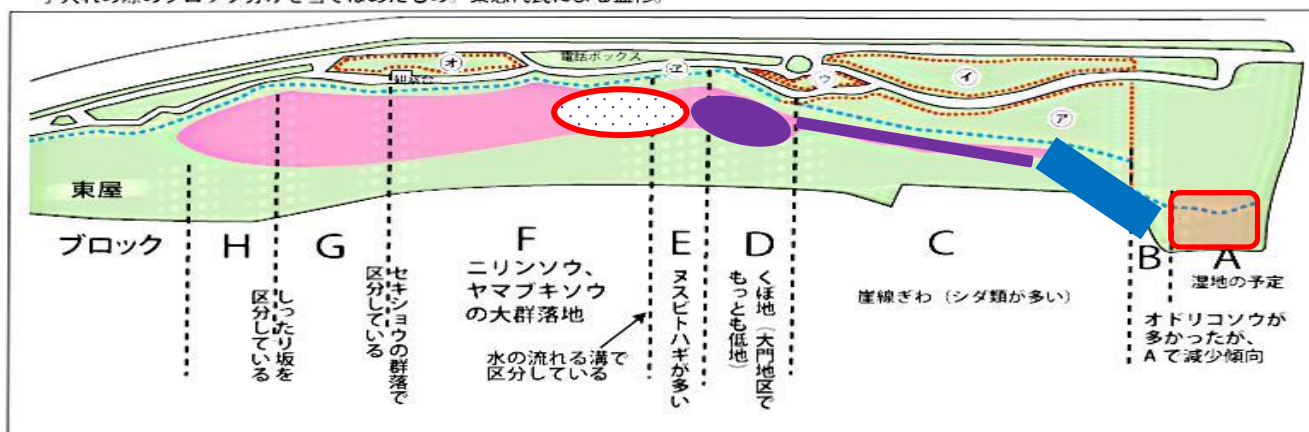
作業は下図マップの E、F ブロックの赤枠部分の草刈りを行いました。また、この日はサービスセンタースタッフによる草刈り機での作業も同時並行で行いました（緑塗りつぶし部分）。紫色塗りつぶし部分は作業が終了している部分です。

この日の参加者は 16 名、旧「ニリンソウを保存する会」解散後、再編した「守る会」の活動も 3 年目に入り、作業に慣れてきたのでしょうか、右上写真のニリンソウメインステージの手前側まで、予定を越えて進行することができました。



都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11.24 改定

・2020.8 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014 年発行『残そう！崖線の自然』に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの。榮志代氏による監修。



難しい課題「選択的草刈り」もこなす保護活動の担い手も成長



マ（右の写真）です。

ハグロソウはニリンソウ、ヤマブキソウと並んで東京都の準絶滅危惧種で、以前からここに生育していたのですが、近年、もともとの生育場所では開花状況が悪くなってきています。その代わり、3年前に生物多様性保全事業のために擬木柵を後退させた場所には新しい株が展開し元気な花を咲かせました。そこで、今回の草刈りでは、この新しい生育場所のハグロソウの

大門のニリンソウ自生地を訪れた方はご覧になっているかもしれませんが、支柱に赤いビニールひもを結んで囲んだところがあちこちにあります。「草刈りをしないでそこに生えている植物を残す」という意味のマーキングなのですが、今年はそのマーキングエリアが大きくとってある場所がいくつかあります。ここではその範囲を全部残すのではなく、「残したい植物」だけを残して草刈りをするという新しいチャレンジをしました。その「残したい植物」はハグロソウ（左の写真）とイヌショウ



来年の生育具合を見るために「選択的草刈り」を試みたのでした。

絶滅危惧種ではありませんが、大門のここでも観察できないイヌショウマも同様な状態なので、新展開している場所では残して、今後の推移を見守ることにしました。

一面を一斉均一に草刈りするのではなくて、微妙な手加減をしながらの手入れができるようになったのがこの3年間の「守る会」の成長です。



刈った草の下には春の野草が

セントウソウやムラサキケマンの展葉はかなり進んでいます。伸びると厄介なヤエムグラは双葉から本葉が展開。←前回 10/30 のレポートではニリンソウの根茎を紹介しましたが、この日は早くも葉を広げていました（左）。

林の外側の日向ではホトケノザも咲き始め、オドリコソウ、カラスノエンドウも展葉。春も見えてきた今年の秋。

